

目指す学校像	「温かい学校 感動あふれる学校」 ・時を守る ・場を清める ・礼を尽くす
--------	--------------------------------------

重点目標	1 生徒一人ひとりの実態に応じた確かな学力の育成を図る授業の工夫・改善 2 生徒が主体的に活躍し、達成感が味わえる教育活動の推進 3 地域の学校を目指した教育活動の推進と積極的な情報発信 4 指導力向上を目指した学び続ける教職員と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和7年2月21日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査(R5)では、国語と数学が全国平均にあと少し、英語は大幅に上回っていた。一方で、市学習状況調査では、全ての学年において、全教科とも市平均に達していない状況である。 ○授業は落ち着いて受けられているが、知識の定着度や理解度に個人差が見られる。 <課題> ○市学習状況調査(R5)の結果概要から、各教科のどの領域についても課題が見られ、既習事項の定着が必要である。 ○生徒アンケート(R5)の結果、「家庭学習をしている」に対する肯定的な回答が7割強で、前年度と変わらなかった。市学習状況調査(R5)では、「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答は5割強で、前年を4.3%下回った。家庭学習の取り組み方について、その成果が実際のテストに反映できるようにするなどの工夫が必要である。	・確かな学力の育成 ・「個別最適な学び」や「協働的な学び」に向けた授業改善	①各教科における現況と課題並びに達成目標の明確化を図り、基礎・基本の定着を目的とした小テストを各教科で実施することで家庭学習の習慣化にもつなげる。 ②定期テスト時の質問教室やスタディサブリの積極的な活用を生徒に促す。	①学校評価「授業は楽しくて分かりやすい」について、肯定的な回答が生徒95%以上・保護者80%以上となったか。(R5生徒94%、保護者69%) ②市学習状況調査(生活習慣)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答が60%以上となったか。(R5_1年50.0%、2年46.3%、3年61.9%)	①学校評価「授業は楽しくて分かりやすい」に対する生徒の肯定的な回答は93%、保護者の肯定的な回答は66%であり、どちらも目標値を下回る結果となった。 ②市の学習状況調査「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答の割合は1年60.1%、2年60.6%、3年72.0%であり、全学年で昨年度を10%以上上回る結果となった。	B	難易度別のドリル学習を行う時間を教育課程内に位置付けることで、日頃の学習習慣を確実に身に付けさせるとともに、効果測定を実施することで、各教科における基礎・基本の定着に努める。また、「学習意欲」「読解力」「コミュニケーション能力」の育成を本校の重点課題として全教科で積極的に取り組む。	・基礎学力の定着には継続することが大切で、小中学校の連携や家庭の協力が必要である。 ・公民館等でも学力に焦点を当てた取組を検討していきたい。 ・共働き家庭が多い中、保護者として学習習慣を身に付けさせるためにどうしたらよいか苦慮している。学校だけでなく、地域の協力も得ながら行えるとよいのではないかと。 ・ドリル学習に入る前の基礎基本の定着が必要ではないかと。 ・生徒が質問を気軽にできるようにできるとよい。 ・土曜チャレンジスクールの活用を積極的にPRしていきたい。
2	<現状> ○生徒アンケート(R5)の結果、「学校生活は楽しい」に対する生徒の肯定的な回答は94%、市学習状況調査(R5)「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、91%であった。 ○市学習状況調査(R5)において、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」、「自分には、よいところがあるといますか」に対する肯定的な回答は市平均とほぼ同程度であり、自尊意識に関する項目は概ね肯定的な回答をしている生徒の割合は高い。 ○施設・設備に係る安全点検は定期的に行われているが、老朽化している箇所も増え、修繕に十分対応できていない。 <課題> ○自己肯定感や自己有用感を高めるために、達成感を味わわせられる生徒主体の取組をより多くの場面で継続的に行っていく必要がある。 ○生徒一人ひとりの状況を踏まえ、より適切な支援体制を構築していく必要がある。 ○定期的な安全点検に加え、事故を未然に防ぐ視点をもった危機管理意識を高めていくことが必要である。	・生徒が主体的に活躍する教育活動の実施 ・生徒一人ひとりを大切にす安心・安全な支援体制の推進	①学級活動、生徒会活動、学校行事等における生徒による話し合い活動を活性化し、生徒自身が決めた内容を盛り込んだ取組を積極的に実施する。 ②朝礼等の際に、生徒会本部や各生徒委員会独自の取組を発表したり、呼び掛けを行ったりとできる場を設けることで、生徒による主体的な企画運営ができる力を身に付けさせる。 ③行事後の振り返りを通し、自分自身の行動に責任がもてるエージェンシーの育成を図る。	①学校評価(教職員アンケート)「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」について、肯定的な回答が95%以上となったか。(R5:学級活動85%、学校行事87%、生徒会活動90%) ②学校評価(保護者アンケート)「行事を通じて子ども達の個性や能力を高めるように努めている」について、肯定的な回答が95%以上となったか。(R5_89%) ③心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合が17%以上とすることができたか。(R5_16.4%)	①学校評価(教職員)の特別活動における肯定的な回答は「学級活動」92%、「学校行事」89.6%、「生徒会活動」100%であり、全ての項目で前年度を上回った。 ②学校評価(保護者)「子ども達の個性や能力を高めるような、魅力的な学校行事を実施している」に対する肯定的な回答は93%で、昨年度の結果を上回ることができた。 ③心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合は16.1%ポイント(R7.1月実施)であり、昨年度を下回る結果となった。	A	次年度も引き続き、学級活動・委員会活動・学校行事等において、生徒が主体的に企画・運営できる機会を積極的に設ける。また、朝礼等を利用した各委員会の活動報告や発表を行うことも積極的に推し進める。 より多くの生徒が携わっていき機会を増やしていくことで、自己肯定感や自己有用感を高め、達成感をもてる教育活動を推進する。併せて、各活動後の振り返りを通してエージェンシーの育成も図っていく。	・生徒が行事に一生懸命取り組んでいるのは教職員の指導の成果だと思う。 ・生徒が主体的に活躍できる行事を継続して行ってほしい。 ・Sola る一むの成果が出ているのはよい。 ・不登校生徒の人数、体育の水泳の授業での見学生徒はどういう状況なのか。また、プールの維持管理費はどうなっているのか。
3	<現状> ○市学習状況調査(R5)の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「ボランティア活動に参加したことがありますか」に対する肯定的な回答は、どちらも市平均を4%程度下回っている。一方、「地域の人たちは、自分たちを見守り、支えてくれている」に対する肯定的な回答は、市平均を1.4%上回っている。 ○朝のあいさつ運動やチャレンジスクール等の様々な場面で、PTA や地域の方々にも多大な協力をいただいている。 <課題> ○学校運営協議会で熟議した内容を具体的な方策にしていく必要がある。 ○学校だよりやホームページに加え、生徒の活躍している様子を地域に積極的に発信するための手段等について検討する必要がある。	・地域への積極的な情報発信	①本校ホームページ(ブログ)による情報発信を週2~3回の頻度で行う。 ②関係小学校の学校運営協議会、青少年育成地区会、関係公民館運営協議委員会等の場を利用し、地域の方々へ本校の教育活動についての情報発信を行う。	①市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答60%以上(R5_51.5%) ②学校評価(地域アンケート)「生徒や教職員は積極的に地域行事へ参加している」に対する肯定的な回答70%以上(R5_63%) ③避難場所開設訓練への生徒参加数50人以上(R5_28人)	①市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答は53.3%であり、昨年度は上回ることができた。 ②学校評価「生徒や教職員は積極的に地域行事へ参加している」に対する肯定的な回答60%であり、昨年度を下回った。 ③避難場所開設訓練への生徒参加は33人で、昨年度は上回った。	A	学校運営協議会での意見を基に、学校外での生徒の活動場面を増やすための方策を検討していく。また、大久保東公民館の防災講座を核として、防災教育の視点から避難場所運営訓練への生徒の積極的な参加を推進していく	・公民館としては来年度も継続して防災を切り口にした講座を実施していきたい。 ・ボランティアに参加している生徒を褒めてあげてほしい。また、生徒の活躍している様子等を生徒自身がPRを行ってみたいと思う。 ・生徒が地域で活躍している様子を見る機会が増えたように思うので、各方面へのPRはできていると思う。 ・防災に係る取組への生徒の参加がもっと増えることよい。 ・青少年育成の方でも、生徒の活躍の場について検討している。
4	<現状> ○本年度から、「『学びのポイント』の視点に基づく授業改善(ICTを活用した学びの推進)」をテーマにした研究を行っている。 ○授業時におけるICTの活用には差が見られる。 ○勤務時間の削減を始め、働き方改革を実感できない状況が見られる。 <課題> ○生徒自らがICTを活用しながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを推進していく必要がある。 ○業務の一層の効率化並びに軽減が必要である。	・指導力向上を目指した学び続ける教職員 ・業務の効率化並びに軽減に向けた働き方改革の推進	①キャリア振り返りシートに基づいた受講奨励を行い、研究発表会や研修会への参加を積極的に推進する。 ②各教科で、生徒の実態に応じた指導方法を研究し、積極的に公開・研究授業を設け、本校独自の授業スタイルを構築する。 ③業務の見直しをもち、To Doリストの活用、定時退勤日の設定、年休の取得日数10日以上設定等、メリハリのある勤務を推進し、在校時間の削減や働き方改革を進める。	①全教職員が研究発表会または研修会に参加できたか。 ②「学びのポイント」の視点に基づく授業改善に向けた公開・研究授業を実施するとともに、本校独自の授業スタイルを構築できたか。 ③「教員等の勤務に関する意識調査」における負担感・多忙感が80%以下(R5_92.3%)、学校業務改善取組の肯定的な回答60%以上となったか。(R5_42.3%)	①ほぼ全ての教職員が研究発表会または研修会等に参加することができた。 ②校内研修の一環として公開授業等を実施しているが、現状では本校独自の授業スタイルの構築には至っていない。 ③「教員等の勤務に関する意識調査」における負担感・多忙感は75%、学校業務改善の取組の肯定的な回答は50%であり、昨年度よりは多少改善された。	B	「学びのポイント」の視点に基づいた「上中スタンダード」と言えるような全教科共通の授業スタイルの構築を推しすすめる。また、デジタル採点ツールの本格運用や学校DX(ICT)の利活用、業務内容の見直しを図りながら、教職員の負担感・多忙感の削減や業務改善をより一層進めていく。	・教職員の負担感や多忙感ほどのようなことが要因なのか。 ・負担感や多忙感を感じるのは仕事をしているということだと思ふ。今後この先生に教えてもらえたと思ってもらえることが大切ではないかと。 ・業務の削減だけでなく、メンタル面のフォローも必要である。